

## 大阪府災害に強い都市基盤施設整備検討委員会 報告（概要）

## (1)基本理念

ゆとりある都市空間を備えた減災の都市づくり

被害の最小化のため、自然との共生に配慮し、災害時に自律、連携できるゆとりある都市空間を創出する。

質の高い都市基盤を備えた暮らしやすい都市づくり

日頃から使い慣れた施設や健全なコミュニティが災害時にも有効であり、高質で余裕のある都市基盤整備が災害に強い都市づくりにつながる。

## (2)安全な都市の骨格づくり

大阪府は、大阪湾岸、周辺山系、淀川と大和川により大きく3つのブロックに区分され、府道大阪中央環状線がブロック相互を連携する交通動脈となっている。

これらを円滑な広域支援活動や延焼遮断を行うための『骨格安全軸』とし津波や土砂崩れなどに対する防災機能の向上とともに、耐震化等による緊急輸送路の確保や広域避難地等としての活用を図る。

一方、地域レベルでの延焼防止や救助、避難、輸送活動等の支援のため、幹線道路を中心とした『基本安全軸』のネットワーク形成を図る。

## (3)安心して暮らせる生活圏の形成

基本安全軸に囲まれた概ね2km四方の市街地において、身近な街路や公園、学校等の防災拠点と基本安全軸を連携させることにより、各地域の特性に応じた『安全生活圏』の形成を図る。

また、行政は、基盤整備の水準や建物の密集度等の状況を『都市に関する情報』として公表し、住民とともに取り組むまちづくりに役立てる。

とりわけ、『木造密集市街地』については、都市基盤施設や住宅・住環境の総合的整備を緊急かつ効果的に進める必要がある。

## (4)災害に強い都市基盤施設の整備

## 都市のゆとり空間の形成

～多様なオープンスペースの拡充と連携により、都市のゆとり空間を形成し、日常の快適性と災害時の被害の最小化（減災）を図る。

## 安全を支えるネットワークの充実

～陸、海、空の多様な輸送手段を確保し、災害に柔軟に対応できる代替性や余裕をもったネットワークを形成する。

## 防災拠点の機能強化

～広域防災拠点へのアクセス道路等の強化を図るとともに、河川や港湾、公園などが担う災害時の拠点機能を強化する。

## 身近な水源の確保

～水辺に近づきやすい河川の整備、下水処理水等を活用したせせらぎの整備等により、災害時の消防や生活用水の水源を確保する。

## 施設の安全性の向上

～土木構造物や建築物の耐震性の強化を図るとともに、共同溝等の整備によりライフラインの信頼性の向上を図る。

## 安心できる住環境整備

～生活道路や身近なオープンスペースなどの充実とともに、地区レベルでの延焼防止対策など、安心できる住環境の整備を行う。

## 安心につながる日常からの備え

～緊急交通路の周知のための標識設置や、道路上の障害物撤去体制の確立など、災害時に都市基盤施設を有効活用できる備えを行う。